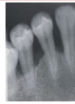


最近出る！過去問

112回 適切な治療法はどれか。3つ選べ。

舌側*	4	4	5	4	4	7	5	3	4
歯種	6		5		4		3		
歯槽*	4	4	4	4	4	5	5	4	4
動揺度**	0		1		0				

\*：プロービング深さ (mm)  
\*\*：Millerの判定基準

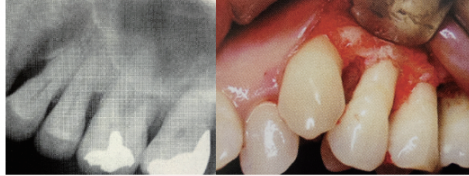


左下5に垂直性の骨吸収

- a 歯肉剥離掻爬術
- b 歯肉弁側方移動術
- c 歯周ポケット掻爬術
- d エナメルマトリックスタンパク質の応用
- e FGF-2製剤の応用

正解 ade

113回 フラップ手術中。骨欠損の状態を示す。術中の所見を踏まえ、次に行う処置はどれか。2つ選べ。



写真から、左上4の近心に2~3壁性の垂直性骨欠損

- a 自家骨移植
- b 歯槽骨切除
- c 歯肉結合組織移植
- d FGF-2製剤の応用
- e オドントプラスチック

正解 ad

リグロスってなに？

1 2016年から保険適用

エムドゲインは自費  
GTRは保険だけど、材料代が...(後述)

2 日本発

大阪大学が精力的に研究

3 世界初！

歯周組織を再生する【薬】として販売

リグロスってすごいの？

【大事件】エムドゲインより治療成績が良い

日本で行った臨床試験、第III層で

フラップ群(プラセボ群)よりも治療効果あり

EMD(エムドゲイン)群よりも治療効果あり

アタッチメントゲイン  
新生歯槽骨の増加

添付文書

2. エナメルマトリックスデリバティブ(EMD)対照比較試験 (検証的試験)<sup>1)</sup>  
歯肉前庭移行手術を行う近視性近視患者を対象に、本邦ではEMDを歯槽骨欠損部を埋める治療法として初めて臨床試験を実施した。投与36週後の新生歯槽骨の増加量は表2のとおりであり、本試験とEMD群の増減差の95%信頼区間の下限値は事前に設定された劣化性差(0.3mm)より大きかったことから、EMDに対する本邦の劣化性が認められた。なお、本試験である歯肉前庭移行手術群における投与36週後の新生歯槽骨の増加量(平均値±標準偏差)は0.08±1.05mmであった。  
また、本試験における増減差別の有意性は表3のとおりであった。

表2 投与36週後の新生歯槽骨の増加量の平均値

治療群	EMD群 (100例)	群間差(95%信頼区間) <sup>1)</sup>
1.05 ± 1.25mm	1.26 ± 1.53mm	0.57(0.18, 0.96)mm

平均値±標準偏差  
注) 劣化性差(0.3mm)を設定された

ちなみに、エムドゲインとGTRには治療成績に関しては有意差がないと言われている(後述)→つまりリグロス最強？